

早慶

ランキング対決!



早慶ランキング対決。

選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。大学別に、得票数に応じてランキングした。

バスケに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることが出来るこの企画は必見!!

1. 足が速いのは?

早

- 1位 國枝 健太 (社学4年)
- 2位 池田慶次郎 (社学4年)
- 3位 山内 大樹 (教育1年)

今季も小柄な早稲田。しかしそんなハンデは物ともしない。スピードで他を圧倒する。今季も「走って、走って、走る」。スピード溢れる早稲田の先頭行くのはいつもこの男、國枝健太だ。昨季までは出場機会にあまり恵まれなかったが、今季はチームの主力選手として多くの試合で活躍する姿が期待される。3年間の鬱憤を晴らすかのようにコートの中を暴れ回って欲しい。國枝のスピードは、今年の得点源ともなる重要な武器だ。2位は我らが主将池田慶次郎。昨季よりもさらにスピードに磨きがかかっている。味方ですら見失うほどの速さだ。「速過ぎて顔が見えないから試合観戦に行かない」とファンが言い出すのではないかと心配である。3位は突如現れた新星、山内大樹。入学早々古傷を痛めたため未だ彼の走る姿は十分に披露されていない。にも関わらず堂々の3位。それほど、彼の速さは皆の記憶に残っている。ダッシュ1本目だけなら國枝や池田よりも速いかも。本人曰く「怪我が治ったらもっと速くなってますよ」。その言葉、確かなものとして欲しい。



國枝 健太

- 1位 真木 達 (環境情報4年)
- 2位 大元 孝文 (環境情報4年)
- 3位 大村 航生 (環境情報2年)

本塾で最も足が速い男に輝いたのは、「神速」の通り名を持つ真木達だ。「まるでスピードスケートのような軽快な走り」で、コートをぶったぎる彼の姿を捉えることは至難の技である。その俊敏性を活かした目にも留まらぬクロスオーバーの前に、立つことのできたディフェンスはまだいないという。続いて2位に選出されたのは、大元孝文である。その強靱な太腿から繰り出されるダイナミックかつ美しいストロークは、「もう止まれないのではないかと」と心配してしまうほどのスピードを生み出す。練習後のインターバル走では、彼の前を走れる者はいない。

第3位は、本塾の元気玉こと大村航生である。彼は身長こそ小さいが、その体の中にある無尽蔵のスタミナは、「どれだけ走っても、走っても!」尽きることがない。シャトルラン走で大村に張り合えるのは、おそらくサッカーの長友選手だけだろう。



真木 達

慶

2. 面白い人は?

早

- 1位 木澤 義椰 (人科4年)
- 2位 井上 和之 (スポ科4年)
- 3位 河合 祥樹 (スポ科3年)

仲 良く、笑いの絶えない早稲田バスケ部。その中で群を抜く1位は、副将の木澤義椰だ。その天然ぶりは、みんなの笑いの渦の中心だ。練習前後のミーティングで真面目な発言をしているのに、なぜか可笑しく聞こえてしまい、笑いを呼ぶ。言い間違いや、聞き間違い、試合中のスローインで普通にラインを跨いでしまったりと、その天然ぶりは至るところで発揮される。「副将としてどうなのか?」言われそうだが、この天然、何だかんだとみんなからの信頼は厚い。「やるときは、やる男」だ。2位は本学の最年長、井上和之だ。常にふざけている。練習後に意味の分からない奇声を発することもよくある。最初は「人見知りをしているの?」というくらい静かだ。しかし、一旦仲良くなると面白いことをずっと言ってくる。飲み会に井上和之は必携です。いつでもお貸しします。3位は師匠こと河合祥樹だ。かなり毒舌で人の事を悪く言うことについて、彼の右に出る者はいない。マシンガンのごとく毒を吐いてくる。河合には嫌われないようにしましょう。



木澤 義椰

- 1位 清家 智 (経済4年)
- 2位 角田侑大華 (トレーナー)
- 3位 トカチョフ サワ (環境情報2年)

最 も面白い男に選出されたのは、清家智だ。色々な意味で塾内に名を知らしめている彼のファンは多い。しゃべれば何でも面白いのに、「ポケツッコミ漫才 他人イジリ自虐ネタ」なんでもこなすことができる「とんでもないお笑いマシーン」である。今すぐ部活を辞めて、芸人になるべきだろう。続いて第2位は、トレーナーの角田侑大華である。もはや発想がおかしい。考えていることが「ぶっ飛びすぎて」いて面白いのだ。他人をポンコツ呼ばわりする彼だが、「本当のポンコツなのは誰なのか?」そろそろ気づいて欲しいところである。

第3位は、トカチョフサワだ。陽気で人気者の彼は、話も面白いし芸をたくさん保持している。自分で面白いことを考えてやってくれるので、追いコンなど部のイベントでは彼が大活躍する。ただ変顔をリクエストするだけでも、そのクォリティの高さに驚かだろ。



清家 智

早

3. バスケをしている時と普段のギャップが大きいのは?

- 1位 森井 健太 (スポ科2年)
- 2位 山本 純平 (スポ科4年)
- 3位 石原 卓 (社学2年)

普 段から笑いの絶えない早稲田バスケ部だが、プレイが始まると、ものすごく集中する。そんな中、普段とバスケ中のギャップが1番大きいのは森井健太だ。ただでさえ滑舌が悪く何を言っているのが聞き取れないうえに、「パンピー」、「ぼちぼちっすね」、「わんちゃん」など意味の分からない自分の中の流行ワードを連発してくる。しかしバスケットの事になると顔が変わり、バスケットIQはチーム屈指である。2位はジブリの国からこんにちは!山本純平。「千と千尋の神隠し」の登場人物「カオナシ」を地で行く。普段は「あ、あ、あ、」とすり寄ってくる時の「カオナシ」がバスケになると、まるで「カエルと油屋の番頭」を食べて豹変した「カオナシ」になる。「千が欲しい、千が欲しい」と執拗に千尋を喰おうとする「カオナシ」の姿は、リバウンドをもぎ取りリングに向かう山本の姿と重なる。練習のスクリーンでは、審判の後輩をも喰おうとする(笑)。3位は「小学生」石原卓。普段はまるで小学2年生のように常にはしゃぎまわっている。バスケが始まってもやっと中学3年生ぐらいだろうか。1つのプレイに一喜一憂。ミスすればいじけ、いいプレイをすればやたらはしゃぐ。しかしそれも彼の良いところ。石原が乗ったら誰にも止められない。



森井 健太

- 1位 黒木 亮 (環境情報4年)
- 2位 田辺 夏彦 (学生コーチ)
- 3位 後藤 宏太 (環境情報3年)

第 1位は、大黒柱の黒木亮である。普段の彼は、温和で人当たりが良く陽気な性格である。だが「バスケをしている時の彼は真剣」そのものであり、時には気迫をむき出しにしてゴール下の荒々しい争いを制する。とてもチーム思いであり、勝利に必要なならばチームメイトにも強い言葉をかける黒木の一面も、みんなから信頼される魅力の一つだ。

第2位は、学生コーチの田辺夏彦だ。彼は普段の練習時はあの名将フィル・ジャクソンのごとく練習の指揮を振る舞うが、練習が終わると本来の温和な性格を取り戻し、優しい一面を見せる。オン・オフの切り替えや友好関係も大事にしている彼は部員からの信頼も厚い。

第3位は、後藤宏太だ。一見「ちょいワルでやんちゃそう」な彼だが、バスケに対してはとても真面目であり、練習・ウェイト・自主練全てに主体的に取り組んでいる。女の子には、ぜひ彼のプレイを見てもらいたい。



黒木 亮

4. 知的な人は?

早

- 1位 井上 和之 (スポ科4年)
- 2位 池田慶次郎 (社学4年)
- 3位 橋本 悠平 (教育2年)

文武両道を志す早稲田バスケットボール部。その中で一番知的なのは誰か。1位に輝いたのはやはりこの男、最年長、井上和之だ。彼が大隈奨学生だということは周知の事実。面白いランキング2位に入っている事も納得できる。なぜなら噂によると、彼は男性向け女性向けと笑の質を考え、使い分けているらしい。面白さも全て計算されているのだ。次いで2位にランクインしたのは、池田慶次郎だ。まさに才色兼備とはこの男の事を言う。知的、バスケうまい、イケメン、さらに優しいときた。完璧な男である...と思いきや、彼には弱点がある。本当に何を言っても面白くないのだ。3位は2年生橋本悠平。高校時代から優等生で、アメリカに住んでいた経験もあり流暢な英語を話す。その勉強の頭の良さをもう少しバスケットに生かして欲しいと思うのは私だけではないはずだ。182cmと平凡な身長ながらチーム1の最高到達点で軽々と激しいダンクを叩き込む。その上シュートがうまい。だが試合に出ると、何をしたらいいのかわからずに迷子になってしまう。バスケットを始めてまだ4年というバスケット歴の浅さを持ち前の知的さで埋めていってほしい。



井上和之

慶

- 1位 平山 浩樹 (法律4年)
- 2位 桑原 竜馬 (経済4年)
- 3位 林 源 (学生コーチ)

知的な人第1位に選ばれたのは、本塾の主務を務める平山浩樹だ。全知全能の神ゼウスの生まれ変わりである彼は、常に冷静な判断と的確な対処で部を支えている。指定校推薦で法学部を突破した彼の身の周りに溢れ出す気品と教養は、素敵で知的な平山の人柄を表しているだろう。第2位は、土佐藩出身の桑原竜馬である。彼は、高校時代に神奈川国体メンバーまでバスケを続けながら、同時に血の滲むような努力を続け経済学部合格した。まさに本塾體育會の模範となる、文武両道の体現者である彼がこのランキングに入るのは当然だろう。第3位は、慶應義塾高校の学生コーチである林源だ。彼の真摯な眼差しと、ミーティングで発するダンディな声には、もはや知性しか感じられない。その知性に皆驚愕し、4年生でさえ彼のことを「げんさん」と呼ぶ。



平山浩樹

5. 服装がお洒落なのは?

早

- 1位 八川 修士 (商4年)
- 2位 佐藤 智也 (社学3年)
- 3位 南木 俊樹 (社学2年)

東バスケ界一オシャレと噂の早稲田男子バスケ部。そんな激しい戦いの中、他を寄せ付けずに圧倒的な力を見せつけ1位を獲得した男がいる。そう、この男八川修士だ。来年末に入川のシグネチャーモデル、「Y P 23」が某有名ブランドから発売される事が決定している。かつてのジョーダン狩りならぬY P狩りが予想されるほどに世間から注目を浴びているのだ。老若男女問わずに八川に憧れ、真似する時代が直に来るだろう。2位、3位は佐藤智也と南木俊樹。早稲田バスケ部夜遊び隊の2人がランクインした。2人は、練習が終わると、なんだかうるさい音楽を流しながら自主練をし、終わると体格を生かしたピチピチのTシャツの上に革ジャンを1枚羽織って2人仲良く夜の街に繰り出すのだ。2人のオシャレな服装だけでなく、どこで身につけたのだろうか、軽快なダンスワーク...ではなくステップワークにも注目だ。



八川修士

慶

- 1位 トカチヨフ サワ (環境情報2年)
- 2位 金井 堅介 (環境情報3年)
- 3位 柴田 篤志 (経済4年)

おしゃれな人1位に輝いたのは、トカチヨフサワだ。何を着てもかっこいいが、モデルもこなす彼は、当然服のコーディネイトも一流である。部則スレスレのセーターを着てくるなど、制服においてもめかりはない。そんな彼は、最近銀座のアバクロでバイトを始めたので、「おしゃれに悩んだら」ぜひ彼を訪ねて欲しい。第2位は、副務の金井堅介である。彼は、環境に適應する能力が高く、3月のアメリカ研修の際も「成田空港の時点でサングラスを装備」し、いち早く自らを「アメリカナイズ」していた。革ジャンやコートなど「なんでも着こなせる」彼の高い身長と長い足を、有効活用したファッションは必見である。第3位は、ラコステと柴田篤志だ。彼は、もはや「ラコステ以外」は洋服とみなしていない。おそらくラコステの年間売り上げの半分は、彼によるものだろう。最近では、「弁当箱もラコステにした」というのだから驚きである。



トカチヨフサワ

6. 努力家は?

早

- 1位 永井 良佳 (理工4年)
- 2位 伊藤 諄哉 (人科3年)
- 3位 濱田 微千 (社学2年)

稲田一努力家な男は誰か、1位は永井良佳。2位は伊藤諄哉、3位は濱田微千だ。選ばれたのは3人がチーム全員日々の練習、練習前後のシューティング、ウェイトで追い込み目標に向け本気で取り組んでいる。しかしそれ以上に努力家なのは女バスの皆だと思います。いつも隣で大きな声を出してチーム全員で声を掛け合い、辛そうなのに楽しそうに練習して、練習が終わるとほぼ全員が遅くまで残ってシューティングをしている。女バスの取り組みを真似して行っている事もあります。昨シーズン「日本一」という目標を成し遂げた女バスの皆を僕たちは本当に尊敬しています。しかし、今年は僕達も「二部優勝一部昇格」、「日本一」という目標を必ず成し遂げます。今年は男女共に努力の早稲田と呼ばれるくらいに本気を出し、男女共に「日本一」を目指します。男子は特にまだまだ未熟ではありますが、これから最善の努力をし、成長し、必ず目標を成し遂げるので、そんな早稲田大学バスケットボール部の姿を見てみてください!!

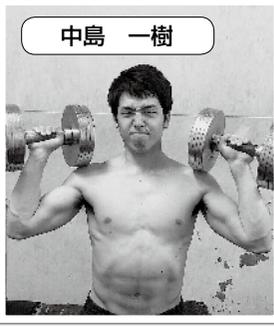


永井良佳

慶

- 1位 中島 一樹 (総合政策4年)
- 2位 大元 孝文 (環境情報4年)
- 3位 西戸 良 (総合政策3年)

努力家な人第1位は、本塾の冷蔵庫こと中島一樹だ。シューティングだけでなく、ハンドリング・ウェイト・体幹など必要なものを考え、「全てに力をつぎ込む姿」は部員の良き模範となっている。彼と一緒にトレーニングすると、「自分もより頑張れる!」という声も多い。その怪物のような体で、相手ガード陣を圧倒するのだ。第2位は、大元孝文だ。オフシーズン・シーズン中関係なく「常に莫大な量!」のシューティングを行っている。また、練習後にもかかわらず「走り回りながらディフェンス付き」のシュート練習をこなす彼は、まさしく本塾のエースである。部室から帰る前の「スマブラ練習」にもめかりはない。第3位は、上級生となった西戸良である。黙々ときついトレーニングをこなす彼の驚異的な足腰は、限界まで自分を追い込んでいる証だ。彼の足とフイジカルを使ったディフェンスは、チームの大きな力となっている。



中島一樹

7. 将来いいお父さんになりそうなのは?

早

- 1位 山宮 弘毅 (教育4年)
- 2位 宮脇 隼人 (スポ科3年)
- 3位 長谷川 暢 (スポ科1年)

将来いいお父さんになりそうなのは? そんなどうでもいようなランキングで見事1位に輝いたのは学生コーチの山宮弘毅だ。ワセダクラブで子供たちにバスケを教えている姿からも容易に想像できる。ただ食べるのが好きすぎてすぐ太ってしまうため、子供も太ってしまうのではないかと、溺愛しすぎて甘々な子になってしまうのではないかと、という一抹の不安もある。本人は、「カッコよくて優しい、さらに面白い、完璧な山ちゃんが良いお父さんになること間違いない」と豪語する。2位はこの男、宮脇隼人だ。彼の可愛く素敵な笑顔は泣いている赤ちゃんをも笑顔にするだろう。チームメートの中にも、あの笑顔で「いない、いない、ばあ」されてみたいと思っているメンバーもいるはずだ(笑)。3位は長谷川暢。能代工業で鍛え上げられたストイックさで、子供には厳格な父となる事が想像される。ついこの3月まで高校生だったとは思えないほど、既にチームを引っ張っている雰囲気を持つ彼は、「いつでも家族を護ってくれる良いお父さん」になるだろう。



山宮弘毅

慶

- 1位 福元 直人 (環境情報4年)
- 2位 黒木 亮 (環境情報4年)
- 3位 丸岩 伴彬 (トレーナー)

いい父親になりそうなお父さん第1位は、本塾の主将を務める福元直人だ。そのふくらはぎに詰まったキャプテンシーは、まさに主将にふさわしく、チーム全員が彼を信頼している。そんな彼は、「時に厳しく、時に優しく」我が子を立派に育てるいい父親となるだろう。「彼の子供になりたい」という部員も多い。続いて選出されたのは、黒木亮である。身体が大きく「心の器も広い」彼は、長きにわたってチームの大黒柱を担ってきた。そんな彼は、おそらく「一家の良き大黒柱」として家族を支えるだろう。第3位は、トレーナーの丸岩伴彬だ。「自分の父親をとて尊敬している」という彼は、おそらく「自分もそういう父親になろう」と努力するだろう。そして、またその姿を見た子供も、彼を尊敬するに違いない。



福元直人